

磁祖加藤民吉生誕250年プレ事業 瀬戸市美術館特別展

川本治兵衛

— 瀬戸染付の精華そして湖東焼 —



《琉璃釉貼花彫牡丹獅子文手桶》 江戸時代後期 高さ35.8cm (個人蔵)

2021 2022
11.20_土 - 3.13_日

【開館時間】午前9時 - 午後5時 (入館は午後4時30分まで)

【休館日】12月14日(火)、12月28日(火) ~ 1月4日(火)、1月11日(火)、2月8日(火)、3月8日(火)

【入館料】一般:500円(400円) 高大生:300円(240円) ※20名以上の団体は()内の入館料
※中学生以下、妊婦、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方は無料

主催：瀬戸市美術館、公益財団法人瀬戸市文化振興財団 特別協力：滋賀県立陶芸の森 陶芸館

助成：公益財団法人瀬戸信用金庫地域振興協力基金

※今後の状況により会期等が変更になる場合がございます。最新情報はホームページ等でご確認ください。

瀬戸市美術館
Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西次町113-3
TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
E-Mail art@city.seto.lg.jp URL <http://www.seto-cul.jp/>

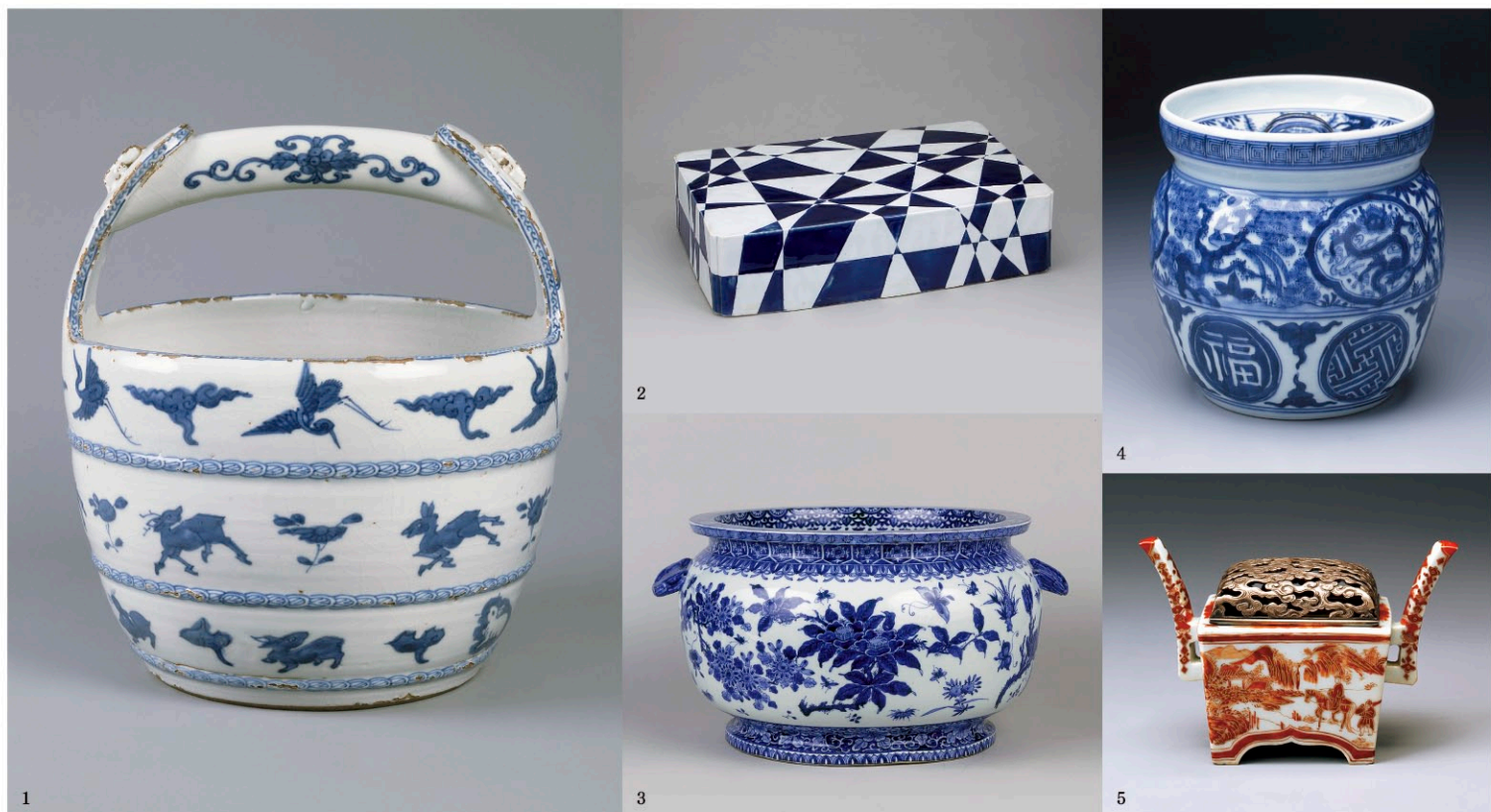
川本治兵衛

磁祖加藤民吉生誕250年プロジェクト 瀬戸市美術館特別展

瀬戸における磁器生産は、享和元年(1801)にはじまり文化4年(1807)の加藤民吉による九州修業からの帰国以降、技術が飛躍的に発展していき、精華の時代を迎えることになりました。

川本治兵衛はこの時代を代表する瀬戸染付の窯屋です。初代川本治兵衛(不詳~1772)の時代に瀬戸の郷地区において陶器生産を開始し、二代治兵衛(不詳~1822)が享和元年に磁器生産へと転じています。以降、三代治兵衛(不詳~1865)の時代を含めて中国磁器の写しに優れ、祥瑞写、虫喰手などを得意としています。また、素地土の改良、瑠璃釉の開発、大型品焼成のための釣焼の考案、銅版転写の試行など、瀬戸における磁器生産技術の発展に大きく寄与しました。号としては「堯僊堂」、「魁陶園」、「祥学」などがあります。

また、湖東焼は、文政12年(1829)、彦根城下の商人絹屋半兵衛らが開窯し、後に彦根藩が召し上げて藩窯とし発展した窯です。その製作は瀬戸や九谷、京都などの先進地から招聘された職人達の指導の下で行われており、中でも治兵衛の弟子である寺尾市四郎(1807~78)が安政2年(1855)に招かれ、瀬戸の磁器の生産技術を伝えたことから、瀬戸風の染付磁器も数多く見られます。本展は、令和4年(2022)に、民吉が誕生してから250年という記念すべき年を迎えるにあたり、民吉の偉業を再認識することを目的とした展覧会の第2弾です。瀬戸染付の精華を極めたと言っても過言でない治兵衛の作品を初めて一堂に展示し、その技と美の昇華をご覧ください。また湖東焼を展示することで、瀬戸の磁器生産技術が伝播した事実とその背景を知っていただきながら、瀬戸における磁器生産の歴史の一頁を明らかにするものです。



1.《古染付写雲鶴文手桶形水指》川本治兵衛(三代) 江戸時代後期 高さ25.0cm(愛知県陶磁美術館蔵) 2.《瑠璃釉踏台》川本治兵衛(三代) 江戸時代後期 幅63.2×41.0cm(個人蔵) 3.《染付花蝶図双耳鉢》川本治兵衛(三代) 江戸時代後期 幅48.6cm(個人蔵) 4.《染付松竹梅龍図蓋付水指》湖東焼 江戸時代後期 胴径16.4cm(滋賀県立陶芸の森 陶芸館蔵) 5.《赤絵金彩山水人物図香炉》湖東焼 江戸時代後期 幅12.5cm(滋賀県立陶芸の森 陶芸館蔵)

関連事業

ギャラリートーク

当館学芸員が展覧会のポイントを解説します。
 日時:2021年12月5日(日)、2022年2月6日(日) 13:30~(1時間程度)
 場所:美術館展示室内 ※要入館料 定員:各回10名
 ※要電話申込:0561-84-1093
 ※11月15日(月)10時より受付開始(先着順)

同時開催

- 常設展「収蔵絵画名品展」2021年11月20日(土)~2022年1月16日(日)
- 常設展「収蔵陶芸名品展」2021年11月20日(土)~2022年1月30日(日)
- 企画展「山下清彫刻展」2022年1月22日(土)~2022年3月13日(日)
- 特別展「瀬戸国際セラミック&ガラスアート交流プログラム」2022年2月6日(日)~2022年3月13日(日)

ご来館の皆様へ

- 発熱や風邪症状のある方、体調の優れない方は、ご来館をお控えください。
- マスク着用をはじめとした咳エチケットの取行をお願いします。
- その他、当館が提示する新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。
- 後日、新型コロナウイルスに感染した方の来館が判明した場合に備え、ご連絡先のご記入をお願いします。
- 団体でのご利用は事前に当館までご相談ください。
- 展示室ではソーシャルディスタンスに気をつけ、他の方との距離を2m以上あけてご覧ください。

皆様のご来館をスタッフ一同、心よりお待ちしております。

近隣施設のご案内(予定)

愛知県陶磁美術館 TEL 0561-84-7474

- 特別展「華*花 —四季の花と中国陶磁史—」2021年10月9日(土)~12月12日(日)
- 企画展「昭和レトロモダン —洋食器とデザイン画—」2022年1月8日(土)~3月21日(月・祝)

瀬戸蔵ミュージアム TEL 0561-97-1190

- 企画展「瀬戸染付—山水画の世界—」2021年8月14日(土)~12月19日(日)
- 企画展「本業の技—近世瀬戸村の名工たち—」2022年1月15日(土)~4月10日(日)

瀬戸市新世紀工芸館 TEL 0561-97-1001

- 展示棟企画展「アーティスト・イン・レジデンス展(第二期)」2021年11月27日(土)~2022年1月16日(日)

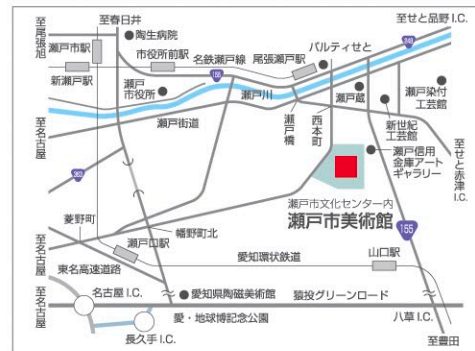
瀬戸染付工芸館 TEL 0561-89-6001

- 企画展「瀬戸染付の近代—郷を中心に—」2021年9月22日(水)~12月27日(月)
- 企画展「瀬戸染付の時代—洞を中心に—」2022年1月5日(水)~3月28日(月)

瀬戸市美術館

Seto City Art Museum

〒489-0884 愛知県瀬戸市西次町113-3
 TEL 0561-84-1093 FAX 0561-85-0415
 E-Mail art@city.seto.lg.jp URL http://www.seto-cul.jp/



【電車でのアクセス】

■名古屋駅から(所要時間約1時間)
 地下鉄東山線で「栄」へ、名鉄瀬戸線に乗り換え「栄町」から「尾張瀬戸」下車、徒歩13分。

【お車でのアクセス】駐車場:無料(500台)

■名古屋I.C. 長久手I.C.から(所要時間約30分)
 東名高速道路「名古屋I.C.」を降りて瀬戸方面へ。
 グリーンロード「愛・地球博記念公園」、または「八草I.C.」まで行き、左折(北)し、瀬戸市街地へ。
 ■せと赤津I.C.から(所要時間約10分)
 東海環状自動車道「せと赤津I.C.」を降りて瀬戸市街地へ。

